

日本洋書協会会報

BULLETIN OF JAPAN ASSOCIATION
OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

目次

- 日本洋書協会2007年度関西懇親パーティー …1
- 委員長会議・海外ニュース・会員の動き ……2
- フランクフルト・ブックフェア Hall 4 ……3
- 展示会のご案内・委員会報告 ……4
- 雑誌の歴史 ジャーナル・ビジネスのあれこれ (1) …5

日本洋書協会2007年度関西懇親パーティー

9月21日(金)、残暑というにはあまりにも気温の上昇した大阪で、恒例の2007年度関西懇親パーティーが15社、35名を集めて大阪全日空ホテルにて開催されました。

懇親会は文化厚生委員の鶴竜次氏(東亜ブック)の司会ではじまり、最初に主催者の文化厚生委員長 鶴三郎理事(東亜ブック)より、一年ぶりに再会できた喜びを語られ「皆さんで情報交換をし、短い時間ですが楽しんでください」と心温まるご挨拶。

続いてマーク・グレシャム協会理事長(UPS)より恒例?になりました日本語でのスピーチ。昨日乗った京都のタクシーにあった「元気・情熱・笑顔」という標語に感銘を受け、「皆さんもいつも元気で仕事に情熱を持って恒に笑顔でいてほしい」といつもながらの気の利いたお話があり、参加者皆「笑顔」で乾杯をし

した。

普段電話等で会話するもなかなかお会いできず、やっと顔と名前が一致した方あり、久しぶりの再会を喜ぶ声あり、新名刺を交換し再びのご挨拶となる方ありと皆それぞれの一年を語り合いながら、なごやかに会は進行しました。今回初めて参加されたジュンク堂書店椿氏も多く参加者とお話され、この会の目的である交流の場を楽しんでいらっしゃるようでした。

楽しい時間はあっという間に過ぎ中締めめの時間となりました。山川隆司理事(ユサコ)よりグレシャム理事長への賛辞と今後の会における新しい試みとしてのセミナー開催のご提案を「元気」と「情熱」をもって語られ、締めのご挨拶。最後も参加者全員「笑顔」での散会となりました。

(H.O. 記)



関西懇親パーティー

日時：2007年9月19日（水）

委員会報告

（1）総務委員会

8月までの予算をチェックしたが、ほぼ予算通りに推移している。

（2）会報委員会

原稿、広告等で会員の協力を感謝している。

（3）事業委員会

8月24日にTIBF バーゲンの打上を行った。

10月29日～11月4日まで三省堂神保町本店でセールを行う。

（4）ホームページ委員会

元ユサコの尾内氏の「雑誌の歴史」を掲載する。

サーバーは設置が終了し、細部の設定を行っている。

（5）文化厚生委員会

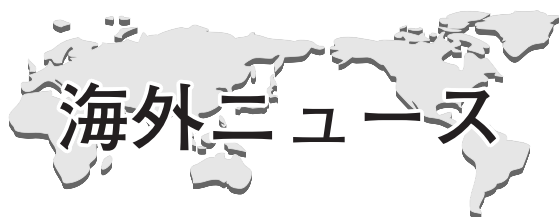
各行事の案内を密に行う。

その他

委員会再編について

総務委員会で討議の結果、広報委員会の機能を2分し、渉外関連を総務委員会で、セミナー等を会報委員会で、それぞれ受け持つこととし、広報委員会は廃止する。

また、他の委員会に付いても時間をかけて討議する必要がある。



◆ Holtzbrinckの米国部門、Macmillanと名称変更

ドイツに基盤を持つコングロマリット Holtzbrinck は、米国子会社の名称を Macmillan に変更する。

「Macmillan は歴史のある名称で、この名を名乗ることは業務上意味がある」と John Sargent, CEO は言う。Holtzbrinck の英国部門は、1999 年に同社が買収して以来、Macmillan の名称を使っているが、米国では Pearson が 1998 年に Simon & Schuster の教育・学術部門を買収して以来、Macmillan の名称を所有していた。

Sargent によれば、何回かの買収で傘下に入った複数の出版社は、Holtzbrinck というグループ名で活動してきたが、今後は Macmillan を名乗ることになる。McGraw-Hill は、引き続き Macmillan/McGraw-Hill の名称を使って幼児から小学校向け教材を販売する。

出版事業がますますグローバルになり、デジタル商品が事業に占める割合を拡大している現在、Holtzbrinck が統一した名称を使うことが重要だと Sargent は言う。インターネットを使うことで、マーケティングはより世界的規模で行われるようになり、同社としては顧客にワールドワイドな事業と認識してもらうことを望んでいる。

グループ内では、Audio Renaissance だけが、これに伴って自社の社名も Macmillan Audio に変更する。Holtzbrinck の流通部門だった Von Holtzbrinck Publishers Services は Macmillan Publishers Services に変更となり、ホームページのアドレスも www.macmillan.com になる。

Publishers Weekly OCT/9/2007

会員の動き

住所変更

オックスフォード大学出版局(株)
〒108-8386 東京都港区芝4-5-10 カーニープ
レイス芝8F
Tel: 03-5444-5454 Fax: 03-5444-6644
移転日：9月18日

社名変更

新：センゲージ ラーニング(株)
旧：トムソン ラーニング(株)

住所等変更はございません
変更日：8月31日

フランクフルト・ブックフェア Hall 4

2001年に初めてフランクフルト・ブックフェアに行ってから、途中で行けない年があったので、今年で5回目だったが、滞在中そのほとんどをHall4.1で過ごしている。アートブックのホールである。ここで会う日本からの来場者は日本洋書協会の会員ではない人のほうが多い。そういう人たちは男性でも女性でも30～40歳台くらいの一匹狼的な個性的な人が多い。そしてなぜか、このフロアにはそういう人が似合う。私がそうかどうかはちょっと疑問があるが。

ブックフェアに行くたびに、メッセ全体の様子も把握しておこうと、できるだけあちこちのホールも短時間だけでも歩き回ってみるが、毎回感じるのは、Hall4.1がいちばん混んでいるということだ。それとやたら暑い。ここには小さなブースがぎっしりひしめき合っていて通路も狭い。天井も他のホールより低くて黒い色なので天井の照明だけでは足りないのか、それぞれのブースごとの白熱電球の数が多く、頭のすぐ上から光と熱を浴びることになる。アート関連の本はほかの分野の本に比べて、大きくて華やかな印象のものが多いのも、会場内のボリュームというか密度というかそのようなものを高めている。ひとくちにアートブックのフロアと言っても、実にさまざまなブースがあるし、さまざまな人たちが集まっている。美術書出版社、デザイン書出版社、建築書出版社、写真書出版社、そういう本専門のディストリビューター、ドイツの芸術大学の出版局、ほとんど個人レベルのギャラリーや美術書店、などなど。世界中のそういう人たちがこのホールに集まってきているので、このホールだけで、ずいぶん国際色豊かである。これが他のホール（だいたい国別・地域別になっている）との大きな違いで、雑多なものの集合体というか、いちばん混んで賑わっているという印象の一因かもしれない。それから、紙と印刷に直接関わっているものがこのホールには多い。特殊な紙、特殊な印刷、特殊な装丁、が関わってくるアーティスト・ブックや豪華本のようなものもある。本というものの起こりから現在の姿までを思い起こすことができる。

出展者ではなくてVisitorなので、あちこち自由に動き回ることができる。普段から付き合いのあるところのブースではつい長居をしたりしてしまうが、やはり顔と顔を合わせて相手の目を見ながら言葉をかわす

のは、メールではできないことなので、来てよかったと思うのである。

ちょっと息抜きにひとつ上のHall4.2に行ってみると、雰囲気はがらりと変わって落ち着いている。ほとんどの男性がスーツにネクタイ姿で、ラフな服装の者にとっては場違いなところに来てしまったという気がしてしまう。印刷された本はもちろんたくさんあるが、それらは文字が主体であるし、オンライン商品のブースもあり、コンピュータとパンフレットやポスターくらいしか目に入らない。さすがが学術書のホールは4.1のぎっしり感とは異質の世界だ。日本洋書協会会員のブースはほとんどここにある。下の4.0のブースはほとんどがドイツの出展者だが、その一角に古書展のコーナーが設けられ今年も賑わっていた。普段は見ることのない高額な古書がいっぱいだ。

今回、初めてフェアの最終日の夕方を体験した。一般の入場者もだんだんと少なくなり片づけを始めるブースもあるなか、午後5:25にチャイムが鳴りブックフェアの終了を告げる短いアナウンスがあった。このとき、こりもせずHall4.1にいたが、あちこちから拍手が起こった。他のホールではどうだったのだろう。出展者たちが、5日間よく頑張ったねえとお互いに拍手しているようだった。4.2の日本からの出展者の皆さんもお疲れ様でした。

最後になったが、今年のGuest of HonorはCatalan Cultureだった。この地域の文学の作家にとってはカタロニア語で書くかスペイン語で書くかが大問題だというようなことが展示の中にあったと思う。長い間スペイン語文化に支配されるような時期があったが、現在は言語的にだけでなく独自の文化圏として確固とした存在になっている、というような内容だったと思う。

今年の入場者数は10月10日から14日までの5日間で283,293人とのこと、去年より3,300人ほど少なかったようだ。その他いろいろな数字や写真はFrankfurt Book Fairのウェブサイトで見ることができる。12日の金曜日にはS-Bahnの運転士たちのストライキというハプニングもあったりしたが、来年はどうなるだろう。またブックフェアにストライキをぶつけてくるのだろうか。来年は10月15日から19日まで、招待国はトルコである。

(株式会社マイブックサービス 藤原弘行)

百学連環展示会のご案内

大変興味深い展示会が印刷博物館で12月9日まで行われています。「百学連環：百科事典と博物図譜の饗宴」というタイトルの展示会で、主催が印刷博物館、日本書籍出版協会、および日本雑誌協会、「雑協・書協創立50周年記念 世界出版文化史展」というサブタイトルも付いています。また、特別協力として、東京大学東洋文化研究所と東京大学大学院理学系研究附属植物園（通称小石川植物園）から減多に見られない稀少な書が多数出品されています。

この展示会のテーマは「私たち人類が、歴史を通じて、いかに、どのようにして知の体系化を図り、普及に努め、そして知的財産を継承してきたかを、古今東西の博物誌と百科事典ならびにさまざまな図譜により紹介する」ことであり、「知るたのしみ、見るおどろき」を堪能できる内容となっています。

展示の構成は四部からなり、第一部では、西洋、中国、日本における黎明期の博物誌と百科事典が、第二部では17～19世紀の西洋を中心とした博物誌と百科事典類が紹介されています。第三部は少し趣を変えて、「江戸に咲く図譜のページ」という題のもとに、江戸庶民の興味と関心をかきたて、知識と教養を広めた様々なジャンルの図譜が展示されています。最後の部では近代以降に各国で編纂された代表的な百科事典が

紹介されており、全部で114点の質・量ともに充実の展示会です。また、会場では大変立派な展示目録が販売されており、この目録を入手するだけでも行ってみる価値があると思います。

なお、本展タイトルの「百学連環」という聞き慣れない言葉の由来を知りたい方は是非会場へ。この言葉が使われた貴重な資料が国立国会図書館に保存されており、こちらも今回展示されていますので、是非お見逃し無く。

さらに、この展示会に合わせて講演会が四回行われます。今橋理子氏の「大博物学時代の松平定信」、紀田順一郎氏と清田義昭氏の「出版界50年のあゆみ」、長田敏行氏「植物図譜を通して見る東西の文化交流」、樺山紘一氏、大木康氏、鈴木薫氏の「知るたのしみ、見るおどろき - 西洋、中国、イスラムの博物学」です。いずれも書物に係わるお仕事をなさっている皆様には興味深い講演会になると思います。日時など詳しいことは印刷博物館のホームページで見られます。各回定員80名で、申込みが必要ですので興味のある方はお早めに。

(雄松堂書店古書部 籠田奉昭)

印刷博物館は <http://www.printing-museum.org/index.html>

委員会報告 <文化厚生委員会>

第126回 72会ゴルフコンペ

2007年9月27日(木) 快晴

会場：狭山ゴルフクラブ(埼玉県)

参加者：15名(11社)

競技：18ホール ストロークプレー

新ペリアによる

<成績表>

	グロス	ハンデ	ネット
優勝 山本明彦(日新)	84	10.8	72.2
2位 宮川 修(日本出版貿易)	95	19.2	75.8

3位 齋藤純生(日本文献出版)	100	24	76
4位 山下志信(サンメディア)	100	24	76
5位 鶴 竜次(東亜ブック)	99	22.8	76.2

ベストグロス	小林謙作(医学書院)	85	(OUT 44 IN 41)
ドラコン	山川隆司(ユサコ)	小林謙作	齋藤純生
	宮川 修		
ニアピン	西山久吉(西山洋書)	金原 優(医学書院)	齋藤純生×2

洋書の歴史 ジャーナル・ビジネスのあれこれ (1)

尾内 昌弘

前書き

1961年に丸善に入社し、2007年6月にユサコを退社するまで、約46年間主として外国雑誌の仕入関連業務に従事してきた。その間に体験した、または起こったことを文章にして残せば、現役の方々に少しは役立つのではないかと思い、思いつくままいくつかのトピックスをとりあげることにしました。しかし記録をとっていた訳でもないし、また、手持ちの資料も少ないので、かなり大雑把な文章になってしまいそうです。そんなこともあったのかと読み飛ばしていただければ幸いです。

はじめに (Journal の歴史)

世界で最初に刊行されたジャーナルはフランス語の文芸誌 *Journal des Savants* と言われているが、科学分野の最初のジャーナルは、英国の *Royal Society of London for Improving Natural Knowledge* (現在の *Royal Chemical Society*) から1665年に創刊された *Philosophical Transactions of the Royal Society* である。当時の *Philosophy* という言葉は現代の *Science* と同義語である。(ちなみに *Science* の最高学位は *Doctor of Philosophy* である) この *Journal* はおそらく会員に配布されたものと思うが、近代郵便制度は英国で1840年に始まったので、どのような方法で配布されたのかは判らない。

Subscription という方法で *Journal* あるいは *Magazine* が定期的に購読されるようになったのはいつ頃から始まったのだろうかと調べてみたが、残念ながら正確には判らなかった。英国にあった *Everett's* 社は *Booksellers and Subscription Agents established 1793* と称していたが、1869年に創刊された *Nature* の初号には *Single copy* の価格は記載されているが、*Subscription* という記載はないので、*Everett's* 社が創業当時から *Subscription* を扱っていたかは疑問である。1869年(明治2年)に丸善が創業され、商業ベースでの書籍輸入が始まったが、雑誌も店頭で販売されていたようである。丸善の社史に1899年(明治32年)から外国雑誌を出版社から直接顧客に送付する方法を採用したとの記載があるので、これがわが国における *Subscription* の始まりと言えるだろう。

戦前・戦後の外国雑誌

洋書輸入協会報(現在は日本洋書協会報)から関連記事を纏めると次のようなものである。

正確な時期は定かでないが、昭和10年(1935)頃に丸善、三省堂、三越、南江堂の4社が非公式に「外誌クラブ」と称する名称で共同行動をとった。その目的は官庁、大学などからの外国雑誌購読の予約受注に際し、採算無視の見積もり競争がなされるようになったため、適正な為替換算率の設定と、外雑業務の特殊性を官庁、大学に説明し理解を得ることへの努力であり、一応の成果を納めることが出来た。

昭和12年(1937)7月に日華事変が始まると、輸入為替許可制が制定され、洋書などの輸入が統制された。その後、上述の4社に国際書房、パート商会が合流して洋書輸入懇話会ができた。これが現在の日本洋書協会(洋書輸入協会)の母体であろう。そして、昭和15年(1940)12月には内閣情報局が設置され、図書の出版、販売の監督官庁になり洋書の輸入もその管轄下に置かれ洋書輸入審議会が創設された。この審議会は為替制限強化のため不要不急の図書などの輸入を押さえると共に時局に即応する重要書を早急に輸入する。目的で

設けられ、その為に輸入業者に協力を求めた。業者も完全協力体制が必要と判断し当局の指示もあったので、昭和16年(1941)3月に海外出版輸入同業会を結成した。同年6月独ソ開戦によりシベリヤ便は途絶した。そしてイギリス、オランダなど各国の日本資産の凍結、輸出禁止が始まり、さらに同年12月8日の大東亜戦争(太平洋戦争)の勃発によって洋書、外国雑誌の輸入は全面的に途絶することになった。

昭和20年(1945)8月に終戦となり、洋書輸入業者は早速丸の内総司令部(G.H.Q.)へ輸入再開を陳情したが、なかなか認められないため、更に強力に輸入の促進を計るよう、戦前の同業会のメンバーが連絡を取り合い、昭和21年(1946)7月に戦後初の懇談会が、丸善、南江堂、三省堂、三越、教文館、国際書房、福本書院、金原商店、山川商会(現:ユサコ)の9社の出席で開かれた。そして、貿易庁が各業界に同庁の代行機関を設立するよう指導していることが判った為、同年8月に上述の9社に東光堂書店、大竹書店、パート商会の3社が加わって、海外出版物輸入協会を創立し洋書輸入の代行機関として認可を受けた。その後、各方面に陳情を繰り返した結果、昭和22年(1947)4月に放出版物として *Life* の1月号から3月号各1,000冊が教文館に入荷し、協会員の希望社に分配された。これが戦後初めての洋書(雑誌)の販売となった。

Life に続いて、丸善に *Collier's* が入荷している。この *Collier's* の輸入は総司令部(G.H.Q.)が日本占領目的達成のため、特別に許可したもので、その販売は一般民衆に一人でも多く読ませるために、図書館(大学・専門学校・研究所・その他の図書館、公共図書館)を優先的に取り扱うように指示されていたという。貿易庁の代行機関として、米国雑誌の取り扱いを協会が行っていたが(実態は輸入・配給の当事者は教文館、丸善であった)、到着した雑誌を協会の会員にのみ配布しているとして、通産省は(G.H.Q.の命令と思われるが)独占禁止法に抵触すると解釈したのか、協会を閉鎖機関として経済活動を禁止し、今後は各社にて直接輸入するようとの通達を昭和23年(1948)8月に通産省が協会に出した。協会としては実質的には影響がないので、名称を海外出版物輸入同業会と変更し、任意団体として再出発することになった。

昭和24年(1949)12月27日総司令部(G.H.Q.)は昭和25年(1950)1月1日から輸入を民間業者の手に渡すと発表した。この新制度によって政府が外国為替予算に基づき輸入する貨物の品目数量のリストを公表、輸入の基準を示し、業者はこのリストの枠内で直接外国の業者と取引ができるようになった。民間貿易の再開は、昭和25年(1950)3月16日締め切りで米国書籍および定期刊行物の外貨割り当ての申請を受け付けることからはじまり、順次イギリス、ドイツそしてオランダ、フランスなどの出版物の輸入申請を受け付けるようになった。この年の5月31日に同業会が通産省に出した、海外出版物の輸入の特異性についての文章に「定期刊行物の予約注文の場合は発行所から直接個々の購読者に郵送され」と書かれているので、この年あたりから、直送方式が復活したと思われる。なお、昭和27年(1952)4月から書籍、定期刊行物は外国為替の自動承認制になった。1960年代後半になると研究分野の細分化により、学術雑誌の創刊が相次ぎ、二次資料誌の価格高騰、新設大学に対する文部省の図書費の増額により外国雑誌の購入が増えたなどの理由により、外国雑誌を取り扱う業者が急増した。

看護医学電子辞書 3

(((音声機能付

手書き対応
漢字



NANDA-I看護診断 電子版(2007-2008)と 治療薬マニュアル(2007) を刷新

※書籍版「治療薬マニュアル2007」に基づく添付文書部分を収録しています。
※書籍版「NANDA-I看護診断 定義と分類 2007-2008」に基づく各診断の定義・診断指標(または危険因子)・関連因子部分を収録しています。

手書きパネルと
英単語100,000語の
ネイティブ発音で

さらに
便利に!



IS-N3000

価格56,175円

(本体53,500円+税5%)

[ISBN978-4-260-00497-8]

看護医学電子辞書

検索

新しい便利な機能

①手書き文字を認識する「手書きパネル」を搭載

漢字・ひらがな・アルファベット・数字に対応。読み方がわからない文字を簡単に入力できます。

②100,000語のネイティブ発音でリスニングも充実

「看護英会話入門」「ジーニアス英和大辞典」など語学系の収録書籍で、ネイティブの発音を聞くことができます。

③バックライト液晶でらくらく操作

小さな文字はもちろん、専門用語ならではの難しい漢字も読みやすくなりました。講演会場など照明が暗い場所でも、見やすくお使いいただけます。



④コンテンツの追加が可能です

CD-ROMやデータカードでコンテンツを追加することができます。

⑤「治療薬マニュアル」で識別コード検索ができます

薬剤識別コードによる検索は、看護医学電子辞書だけ!

やっぱり便利! 看護医学電子辞書ならではの機能

- ▶ 複数の書籍を横断検索できるスーパージャンプ機能
- ▶ コンテンツ拡張機能で好きな辞書を選んで増やせます
- ▶ レイアウト・文字の大きさを変更可能
- ▶ 単語帳に重要語句を登録可能
- ▶ ヒストリーサーチで前に調べた言葉がすぐわかる

収録内容

■ = 新収録書籍

看護・医学系 <医学書院>

■ 看護大事典	収録数: 約35,000解説項目
■ 看護・医学事典 第6版	収録数: 約12,000語
■ ポケット医学英和辞典 第2版	収録数: 約90,000語
■ カルテ用語集	
■ 臨床検査データブック コンパクト版 第3版	
■ 治療薬マニュアル電子版(2007準拠)	
■ NANDA-I看護診断電子版(2007-2008準拠)	
■ 看護英会話入門 第3版	(((ネイティブ発音) 約200会話シーン、約470単語のVocabulary

国語系

■ <小学館>デジタル大辞泉/逆引き大辞泉	収録数: 約230,000項目
■ <学習研究社>漢字源(JIS第1~第4水準版)	収録数: 約13,255字 / 熟語約48,000語
■ <旺文社>カタカナ語新辞典	収録数: 約12,400語 / 略語約1,500語

英語系

■ <大修館書店>ジーニアス英和大辞典	(((ネイティブ発音) 収録数: 約255,000語
■ <小学館>ケンブリッジ英英和辞典	(((ネイティブ発音) 約35,000語
■ <小学館>プログレッシブ和英中辞典 第3版	収録数: 約90,000語
■ <大修館書店監修>英語類語辞典	(((ネイティブ発音) 収録数: 約21,000語
■ <DHC>英会話とさのひとこと辞典	(((ネイティブ発音) 約3,000例文
■ <DHC>英会話海外旅行ひとこと辞典	(((ネイティブ発音) 約1,450例文
■ <インターチャネル・ホロン>電子辞書でどこでも英会話【基礎編】	(((ネイティブ発音) 約1,200項目

生活・実用系 <日立システムアンドサービス>

■ 百科事典マイペディア(電子辞書版)	収録数: 約85,600項目 / 図約1,800点
---------------------	---------------------------



医学書院

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 【販売部】 TEL 03-3817-5657 FAX 03-3815-7804
E-mail sd@igaku-shoin.co.jp http://www.igaku-shoin.co.jp 振替 00170-9-96693

消費税率変更の場合、上記定価は税率の差額分変更になります。

日本洋書協会会報 vol.41 No.10(通算482号) 発行日2007年10月25日 編集者 正田 実

発行所 日本洋書協会 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-17-3 TEL 03-3264-8791 FAX 03-3264-8790

URL: http://www.jaip.gr.jp E-mail: jaip@poppy.ocn.ne.jp